

海洋高等学校 新聞広報

平成23年5月12日 (木)

～スペシャリストとなった先輩からのメッセージ～

卒業生特別講演会 「潜水士の世界」

海洋高校は、全国の水産・海洋系高校の中でも屈指のダイビング施設をもっています。海洋高校在学中に潜水士の国家資格をとり、プロダイバーとして水中工事の最前線で活躍する卒業生が、海洋土木や海洋調査の仕事紹介とともに、企業が新卒社員に求める力や仕事の選び方について、後輩高校生に語りました。

毎日新聞 (丹波丹後版)



「潜水士の世界」語る 海洋高OB浦谷さん

宮津市の府立海洋高で11日、卒業生特別講演会があり、ダイバーの浦谷拓磨さん(20)が「潜水士の世界」をテーマに語った。写真。飲み水となる配水池に穴が開き、水中で補修工事をした体験を披露し、「ダイバーでないとできない仕事だと実感した」と語り、後輩たちに「元気が一番。何でも積極的に行動してほしい」と呼びかけた。

舞鶴市出身。海洋高では海洋工学科海洋技術コースに学び、在学中に潜水士の国家資格を取った。卒業後、潜水会社のノダックに入社。全国各地のダムの取水口のスクリーン取り換え作業などに従事している。仕事に関して「潜水工事だけでなく、海洋調査、油流出事故に備えたフェンス作りなどさまざまな分野に及んでいることが驚きだった」と話した。

入社3年目で勉強の日。新入社員としての心構えとして「大きな声を出して受け答えし、朝早く出勤して清掃するなど気遣いが大切だと実感した」と強調。社会人として報告、連絡、相談の「ほうれんそう」が大切だと話した。

潜水業の世界も時代とともに変化し、従来ならゼネコンが請け負ってき

積極的に行動を 後輩へアドバイス

う。

高校時代はカッター部とボート部。水中での作業は危険と隣り合わせで、最後は自分一人での判断ですべてを行うといい、「高校時代のクラブ活動で基礎的な体力、精神力が身に付いた」と語り、

た仕事も受注するようになってきているという。海洋高には水深10メートルのプールなど技術を学ぶための施設が整っており、「高校時代に取れる資格はほとんど取っていた方がいい」とアドバイスした。

【塩田敏夫】

海洋高等学校 新聞広報

平成23年5月12日 (木)

～スペシャリストとなった先輩からのメッセージ～

卒業生特別講演会 「潜水士の世界」

海洋高校は、全国の水産・海洋系高校の中でも屈指のダイビング施設をもっています。海洋高校在学中に潜水士の国家資格をとり、プロダイバーとして水中工事の最前線で活躍する卒業生が、海洋土木や海洋調査の仕事紹介とともに、企業が新卒社員に求める力や仕事の選び方について、後輩高校生に語りました。

産経新聞 (丹波丹後版)

「人々の生活基盤を支える仕事」

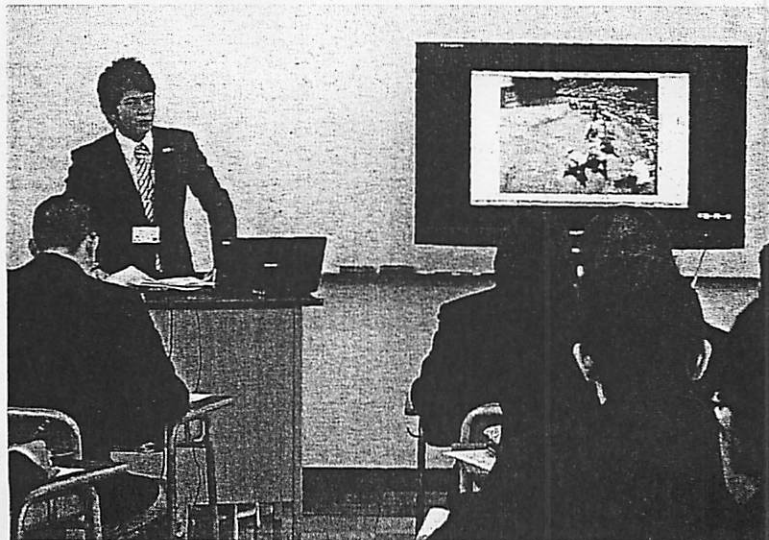
生徒たちの社会人としての基礎力を育もうと、府立海洋高校(宮津市)は11日、潜水士として働いている卒業生の浦谷拓磨さん(20)を講師に招き、特別講演会を行った。海洋工学科海洋技術コース2、3年生の生徒

「潜水士の世界」紹介

約30人がメモをとるなどしながら聴いていた。浦谷さんは平成21年3月に同コースを卒業。4月に潜水工事や海洋調査を行う会社に入社した。

講演会では、「潜水士の世界」と題し、海洋土木や海洋調査の仕事について紹介。ダムにも関わって工事を行っている様子などを写真を使って説明した。さらに、配水池にいた穴の補修を行った際のエピソードを挙げ、「人々の生活の基盤である『水』を支えているので、責任がある分やりがいがある。ダイバーにしかできない仕事なので達成感は大いです」と話した。その後、生徒から「仕事で大変だったことは何か」「学生時代にやっておけばよかったと思うことは何か」などの質問が出され、浦谷さんが答えていた。

宮津の海洋高 OBの浦谷さん特別講演



在校生らに潜水士の仕事について話す浦谷拓磨さん(宮津市の府立海洋高校)